（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

2021年度（令和３年度）学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番　12	福山市立培遠中学校
	最終更新日	2022年（令和４年）２月５日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００NEN教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

・小学校・中学校共に，子どもが目標を立て，課題に取り組み，その成功体験により，自己肯定感が上がるという流れよくわかった。
・中学校は，短期経営目標の自己評価結果に基づく改善方策を実行してほしい。
・積極的な情報発信により，中学校区の学校保護者・地域が互いに連携協力を深めてほしい。

児童生徒の現状

・意欲的に学び合う姿が増えてきた。
・課題発見学習にチャレンジしている。
・中学校における長期欠席の生徒は全体の4.6%である。（全国平均3.9%）
・人間関係トラブルを，当事者同士で解決できない。周辺の一部の子ども達にも，トラブルを温存，助長する傾向がある。
中学校では，一部の生徒で，SNS のトラブルが，繰り返し起きている。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	課題発見力，論理的思考力，コミュニケーション力，実践力
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	自己を認識し，自分の人生を選択し，表現することができる
中学校区として統一した取組等	・子どもが主体的で，対話のある授業づくり ・子どもの問いが生まれる授業づくり ・子どもがワクワクする授業づくり ・地域貢献活動の実施

Ⅲ　自　校

ミッション

知・徳・体の調和がとれ，自らの学校に誇りを持てる生徒を育てるとともに，地域・保護者との繋がりを深め，地域に愛され，信頼される学校教育の創造を目指す。

学校教育目標

夢を志にチャレンジ

～たくましく生きる力を身に付け，自らの進路をきり拓き，地域に貢献できる生徒を育てる～

現　状

＜児童生徒＞
・自分に良いところがあると答える生徒の割合は74.3%である。
・ボランティアリーダーを中心にボランティア活動に取り組み，毎月全体の３０%の生徒が参加する。
・長期欠席生徒は，全体の4.6%である。（全国平均3.9%）
・一部の生徒で SNS を中心とした人間関係のトラブルが当事者同士で解決できず，大きなトラブルになることがある。

＜授業＞
・総合的な学習の時間を中心に，SDGs の実現や問題解決学習を意識し，生徒が主体的でワクワクする授業づくりをめざしている。教科学習では問題解決学習については不十分である。
・主体的で対話的で深い学びを進めるために，一人一台の Chrome book を活用しながら，協働的な学習の場面を授業に位置づけ，学習意欲や思考力・表現力の向上に努めている。
・基礎学力定着のために，全員受験で，１年生で日本語検定，２年生で文章検定の合格を目標に学習をしている。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		○課題発見力　○論理的思考力　○コミュニケーション力　○実践力
めざす子ども像		Well-being の実現 ○課題発見力 ・身の回りの事象について，多面的・総合的に考えて課題を見つけることができる。 ○論理的思考力 ・将来の進路希望に基づいて当面の計画を立て，その達成に向けて努力することができる。 ○コミュニケーション力 ・チームとしての立場の違いを理解し，お互いを活かしながら協働することができる。 ○実践力 ・地域や身の回りの課題解決に向けて，行動をすることができる。 ※たんぽぽ魂，ＳＤＧｓ，自分で決める，生活五訓（挨拶・時間・美化・服装・姿勢）を意識して生活し，これらの力を高めていく。
研究	テーマ	小中９年間を見通した主体的・対話的で深い学びを目指した授業の創造
	内容等	子どもの問いを中心にした学びを目指す
めざす授業の姿		○生徒・教師が学びの過程を大切にし，生徒が自ら問いを創る授業 ・「育成する力」を見通した単元計画をもとに，生徒が主体的に学び，生徒が問いを立てる。 ※問題解決学習（探究学習）の実現。問題発見能力・問題解決能力の育成。 ○「指導と評価の一体化」のための学習評価を生かした授業 ・生徒が「自己調整する」機会をもつ。粘り強さを育む。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立培遠中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（2月末） □指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
4	自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，判断して行動する生徒の育成	★	新規	問題発見能力，問題解決能力を育む。	▽問題解決学習（探究学習）を，教科と総合的な学習の時間で行う。 ▽授業の冒頭に生徒が問いを立てる場面をもつ。 ▽日常生活での問題解決学習にもこだわり，授業と日常をつなぐ。	△授業でわかる・できると感じられる場面がある生徒の割合を90%以上にする。 △定期試験において，30%未満の生徒の割合を10%未満にする。 △全ての生徒会の委員会が毎学期，問題解決にチャレンジする。	□わかる・できる 1年90.5% 2年83.5% 3年90.8% □30%未満 1年5.5% 2年9.7% 3年8.4% □生徒会委員会が問いを立てチャレンジを始めた。環境改善を生徒がしている。	3	3	○総合的な学習の時間での問題解決の経験を各教科でも活かし，主体的な学びができる機会をつくる。 ○平日の部休日２日を活用して，学校生活の諸問題について，生徒が課題解決できる力を育む。	□わかる・できる 1年84.6% 2年92.6%↗ 3年94.8%↗ □30%未満 1年8.3% 2年15.6% 3年13.1% □具体的に目標を設定し課題解決を始めた。 ◎総合的な学習の時間や日常生活で，問題発見，問題解決することが定着しはじめた。	3	3	3	○問題解決学習とは何かということが，徐々にわかり始めたので，総合的な学習の時間を柱に，各教科，日常生活の中でも問いを立てる場面を更に充実させ，生徒の探究学習の機会を大切にする。
			継続	主体的に学ぶ態度を育む。	▽指導と評価の一体化のための学習評価を行う。 ▽単元の中で，自己調整をする機会をもつ。 ▽生徒が自分の学び方を計画したり，選んだりする場面を設ける。	△分からないことはそのままにせず，分かるまで努力している生徒の割合を80%以上にする。（粘り強さ） △授業の中で，学んだことを振り返っている生徒を80%以上にする。（自己調整） △自分で勉強の計画を立てている生徒の割合を80%以上にする。（自己調整）	□分かるまで努力 1年70.6% 2年70.9% 3年85.9% □授業の振り返り 1年68.3% 2年66.9% 3年67.6% □計画を立てる 1年55.6% 2年54.3% 3年52.8%	3	2	○自分自身の学びを振り返り，次の学習に向けて歩み始める自己調整する力を育む機会を丁寧にもつ。 ○目標設定の課題について，定期試験に向けて計画を立てる機会を活用する。	□分かるまで努力 1年66.7% 2年79.6%↗ 3年81.5% □授業の振り返り 1年53.7% 2年66.7% 3年70.4%↗ □計画を立てる 1年45.5% 2年64.8%↗ 3年63.0%↗ ◎「努力」，「振り返り」，「計画」の全てについて，１年生で課題が出てきている。	3	3	3	○主体的な学びの２つの柱「自らの学習を調整しようとする側面」「粘り強い取組を行おうとする側面」について更に意識づけを行うことで，自ら目標設定し，学びを深める支援をする。
4	自己肯定感，自己効力感が高い生徒の育成	★	継続	自分で決めて，実行し，成功体験を通して，自信を育む。 失敗したときは，再度，自分で決める態度を育む。	▽自己効力感を高めるためのライフスキル教育を計画的に実施する。 ▽生徒と共に校則を見直し，誰もが過ごしやすい学校，誰もがやり直しができる学校にしていく。 ▽日常の評価のあり方を見直し，生徒に寄り添い，生徒によりよい自己決定や，自己評価を高める機会をもつ。	△長期欠席生徒率を全国平均以下にする。 ※全国平均3.9% △学校が楽しいと回答する生徒を90%以上にする。 △自分には良いところがあると答える生徒の割合を80%以上にする。 △努力すれば，自分もたいていのことはできると答える生徒の割合を85%以上にする。	□9月末長期欠席 15人 3.4% ※昨年度　13人 （コロナ禍学校再開6月） 一昨年度22人 □学校が楽しい 1年82.5% 2年78.7% 3年77.5% □自分良いところ 1年75.4% 2年74.8% 3年78.2% □たいていのことはできる 1年83.3% 2年81.9% 3年83.8%	3	2	○生徒が自分で決めることの支援ができている。引き続き，自己決定の支援の精度を上げる。。 ○生徒会発信で，学級活動においても，「誰もが過ごしやすい学校」，「誰もがやり直しができる学校」について考え，行動化できる生徒を育む学校風土をつくる。	□長期欠席 19人 4.3% ※昨年度4.6% □学校が楽しい 1年73.2% 2年85.2%↗ 3年83.7%↗ □自分良いところ 1年75.6%↗ 2年83.3%↗ 3年79.3%↗ □たいていのことはできる 1年81.3% 2年87.0%↗ 3年83.7% ◎「自分には良いところがある」について，全学年が向上している。特に２年生が全項目で向上している。	3	3	3	○１学期，２年生の課題が明らかとなったが，現在，改善傾向にあることを活かし，新３年生になったとき，リーダーとして，生徒が学校づくりに参画する教育活動を仕組む。自ら考え，決める活動での成功体験を通して，自己効力感を高めたい。

4	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指す生徒の育成		継続	運動の楽しさを実感し，健康を大切にする態度を育む。	▽体育の授業で，個々の記録の伸びに着目できるよう，結果を活用する。 ▽体育的行事を，生徒にとって運動が好きと思える取組になるよう見直す。 ▽生徒が生活習慣の改善や食育の推進の機会をもつ。	△体力向上のために，自分で努力していることがある生徒の割合を８０%以上にする。 △体育的行事における生徒の満足度を 90%以上にする。 △朝食を食べてくる生徒を95%以上にする。	□体力向上の努力 １年 73.8% ２年 67.7% ３年 64.1% □体育的行事満足 １年 82.6% ２年 93.1% ３年 85.2% □朝食を食べる １年 84.1% ２年 89.8% ３年 88.0%	3	2	○公民館紹介の外部講師の指導も生かし，駅伝大会を目標にする。コロナ禍で制限があるが，生徒が主体的にできる体育行事を行う。 ○朝食を食べることについて，生徒会でも考える機会をもつ	□体力向上の努力 １年 61.0% ２年 75.9%↗ ３年 60.0% □体育的行事満足 １年 90.4%↗ ２年 92.5% ３年 97.2%↗ □朝食を食べる １年 86.2%↗ ２年 94.4%↗ ３年 86.7% ○２年生の改善がよい。体力向上に課題が残る。	3	3	3	○体育の授業を中心に運動の楽しさを体験する機会を大切にする。 ○生徒が企画，運営する生徒主体の活動での中で，体育行事，食について考える機会を設定する。
2	教職員がやりがいを感じ，充実感を得られる学校		継続	教職員一人一人がそれぞれの立場で，学校運営に参画する。	▽ICT 機器の活用により，業務の改善をはかる。 ▽週に３回（平日２日，土日１日）の部活動休養日を設ける。 ▽会議などを事前に計画し，勤務時間内に設定する。	△時間外勤務時間が 45 時間を超える教職員を０人にする。 △仕事に意義とやりがいを感じている教員の割合を 95%以上にする。 △授業づくりを行う時間が確保できている教員の割合を 80%以上にする。	□４～９月平均 45 時間超える教員 56.7% ※昨年度 86.7% （コロナ禍学校再開６月） 一昨年度 39.1% □やりがいを感じる 85.7% □時間確保できる 57.1%	3	2	○生徒との関係づくりを深め，見通しをもった支援を行う。 ○ICT の先駆的な活用をしている教員の実践を共有する。	□４～９月平均 45 時間超える教員 41.5% ※昨年度 15.6% （一昨年度 57.0% □やりがいを感じる 76.4% □時間確保できる 58.8%↗ ○一時期，生徒指導事案に，教員の時間の費やされることがあった。改善してきた。	3	2	2	○ICT を活用したアンケート調査，生徒の学力状況把握等を更に進めることで，生徒の実態に応じた適切な指導を行うとともに，業務改善を目指す。
6	地域・保護者から信頼され，通わせてよかったと思われる学校		継続	地域・保護者の学校教育に対する満足度を高くする。	▽コロナ禍において，Youtube や Zoom を利用して積極的に学校の活動を地域・保護者に発信する。 ▽三角公園の管理や，地域防災など，持続可能なまちづくりを教育課程に位置付け，地域貢献を行う。 ▽地域の行事やボランティアへ参加させる。	△学校の取組がよくわかると回答する保護者の割合を 85%以上にする。 △子どもは学校生活に満足していると回答する保護者の割合を 90%以上にする。 △地域を住みよいまちにしていくために貢献していると答える生徒の割合を 80%以上にする。	□学校の取組よくわかる 51.6% □子どもは学校生活に満足（保護者）　66.4% □貢献していると答える生徒 １年 54.8% ２年 53.5% ３年 64.8%	2	2	○ホームページの更新を定期的に行う。 ○生徒が自己を認識し，前向きに生活できる学校風土をつくる。 ○三角公園環境整備をはじめとした地域貢献活動を充実する。	□学校の取組よくわかる 53.6%↗ □子どもは学校生活に満足（保護者） 68.4%↗ □貢献していると答える生徒 １年 47.2% ２年 61.1%↗ ３年 63.0% ◎学校の情報発信に課題がある。 コロナ禍で今年度も地域貢献活動が，三角公園整備以上のことができていない。	2	2	2	○これまでに蓄積したスキルを活用し，YouTube等を活用して，生徒発表や学校の様子を配信する。 ○コロナ禍でも地域貢献できる新しい地域のボランティア活動を掘り起こす。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０%以上１００%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０%以上８０%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０%以上６０%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０%未満の達成度	目標を達成できなかった。